

白浜レスキューネットワーク通信 12月号

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3137-8

TEL&FAX0739-43-8981

<http://www.aikis.or.jp/~fujivabu/nrsv1.htm>

e-mail yabiumi@yahoo.co.jp

理事長 藤藪庸一

郵便振替 00920-6-85589 口座名：白浜レスキューネットワーク
 紀陽銀行白浜支店普通預金 589389 口座名：NPO特定非営利活動法人
 白浜レスキューネットワーク

自殺者救済活動

12月1日～12月31日

電話件数 69件

保護件数 5人(男性4人、女性1人)

帰宅件数 5人(男性4人、女性1人)

○3日パトロール中に20代の女性を保護。仕事に行けず悩んでいた。家族には仕事に行っていると嘘をつき続けてきたが、ごまかしきれなくなり、死にたい気持ちが強かった。数日後、ようやく家族と連絡を取る決心がつき電話をかけた。しばらく滞在することになった。

○5日、以前関わったことのある60代の男性が早朝訪ねてきた。実家で母親の看病をしながら生活しているが、その母親をおいて出てきたようだ。自分自身が患っている病気のことで、地元の病院の対応に不信感を持ち、こちらの病院に掛かりたいということだった。しばらく滞在し病院に通ったあと実家へと帰った。

○6日、以前関わった10代の男性から電話があり、もう一度受け入れることになった。近くの飲食店に就職を果たすも、突然17日にいなくなった。19日、本人から電話があり、地元へ帰り、建設業者の事務所でお世話になっているということだ。

○8日、一人男性を保護してほしいとお寺から電話があった。その後、行方がわからなかったが、その男性自身が16日に電話をかけてきた。当NPOで保護することになった。

○22日、電話があり男性を保護した。テレビで見ても相談にのってもらいたいと思って来た。話をする中で落ち着き25日に帰宅した。生活保護を受けている。

○29日、滞在して約2ヶ月になる女性が実家に帰ることになった。死にたい気持ちがなくな

ってきたことと、もう一度家に帰ってやり直したいという気持ちになれたことで決断した。

生活自立支援活動

12月1日～12月31日

滞在者数 16人(男性15人、女性1人)

○3日に保護した女性は、リストカットして気持ちを落ち着けることを繰り返した。白浜町福祉係を通し通院とカウンセリングに通う手配をしてもらった。

○まちなかキッチンで働きながら、近くの飲食店で働くことが始まった男性は週2日のペースでアルバイトに行った。

○ホテル勤務の男性は、将来都会に出るか白浜に残るか考えているようだ。お金を貯めながらしっかり考える時間をもち結論を出していこうと話した。

○まちなかキッチンと代行の仕事をしている男性は、年末年始の休みを利用して登山でリフレッシュした。

○農業に携わっている男性3人は、小松菜がなかなか育たない状況で苦勞している。年末年始関係なく農作業に従事した。

○毎日ゴミ拾いに出ている男性は、本を読むのが好きでかせいだお金で本を買えたことを喜んだ。

○まちなかキッチンとコペルくんを手伝う男性が年末に大阪にいる弟のところに行った。

○クリスマスの時期ということもあり、教会行事等に皆が積極的に参加して助けてくれた。感謝。13日、クリスマス祝会。19日、こどもクリスマス会。21日、クリスマス礼拝。24日、キャンドルサービス。

○29日、お餅つきを行う。

○31日、年越しそばを食べた。

自殺予防活動

・放課後クラブ・コペルくん

開催日数16日、延べ人数153人(内中学生35人)



「もらうクリスマスだけではなく、あげるクリスマスにしよう！」と毎年この時期クッキーとクリスマスカードを作りや家族や友人、大切な人にプレゼントをした。



13日に行ったクリスマス祝会で、コペルくんから3名が発表の舞台に立った。(2名はピアノ、1名は聖歌隊参加)緊張しつつも頑張ることができた。

・はじめ人間自然塾

29日、お餅つきを行なった。全部で50キロのお餅をつききった。つきあがったお餅を町内会のご近所に配った。



・相談電話

3日、10日、17日、24日、31日に行なった。毎週欠かさず1名の相談員が来ている。

・まちなかキッチン

弁当と惣菜の販売、無料の配布を行なった。29日から年末のお休みに入った。惣菜部門では31日におせちの販売を行なった。



←三色鶏そぼろ弁当

・おからクッキー

よってって、紀菜柑、エバグリーン上富田店、業務スーパー白浜店で、販売継続中。



・農業

毎日4名が従事している。なかなか大きくなって小松菜を相手に悪戦苦闘中だ。

